

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
E112J011		彫刻 (Sculpture )																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
必修	1	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 村上 佑介  E-mail y-murakami@oita-u.ac.jp 内線 7594													
授業の概要	立体表現の中で使用される「素材」に焦点をあて、教育現場の実践例や美術作品をもとにその多様性を知る。また、代表的な素材の一つである木材・テラコッタによる制作を行い、その特性を理解し、素材を加工する技術、発想力を伸ばす。この授業では中学校美術科および高等学校芸術科(美術)におけるカービングおよびモデリングに関する効果的な教材開発を検討する。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 素材の特性を理解し立体的に表現することができる。																			
目標2 素材の加工に必要な道具を適切に使用することができる。																			
目標3 カービング技法・モデリング技法を活用した中学校美術科および高等学校芸術科(美術)の教材を提案できる。																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 オリエンテーション、課題の説明																			
2 木彫及びテラコッタ作品の制作手順について、道具の説明、モチーフの検討																			
3 木彫制作 : アイデアスケッチ(アイデアスケッチにより完成作品をイメージする。)																			
4 木彫制作 : 罫書き/芯材づくり																			
5 木彫制作 : 粗彫り(余分な箇所を削り落とす。)/芯材づくり																			
6 木彫制作 : 粗彫り(大まかな形をとらえる。)/粗付け																			
7 木彫制作 : 粗彫り(罫書きを繰り返しながら、形をとらえる。)/粗付け																			
8 木彫制作 : 面取り(面を意識しながら制作する。)/大まかな面による構成																			
9 木彫制作 : 面取り(面を意識しつつ、少しずつ丸みを出す。)/大まかな面による構成																			
10 木彫制作 : 面取り(より細かな面を意識しながら制作する。)/細かな面による構成																			
11 木彫制作 : 細部(細かな部分を彫り進める。)/細かな面による構成																			
12 木彫制作 : 細部(彫刻刀などで細部を彫り進める。)/細部仕上げ																			
13 木彫制作 : 研磨・彩色(やすり等で磨き、着色する。)/乾燥、焼成																			
14 木彫制作 : 彩色・仕上げ(着色し、イメージに近づける。)																			
15 総括・講評会: 提出された課題作品をもとに講評会を行い、本授業における成果と課題を理解する。																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	制作中に各個人作品の指導のなかで、確認、意見交換を行う。					工夫 その 他の	なし。											
	B:意見の表現・交換	総括・講評会・レポートにより行う。																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	多様な素材を使用した作品や、授業の題材を調査し、考察する(7h)。																	
	事後学修	木材の扱い方や道具について復習をする。また、講評会での意見を自主制作活動へ反映させる(8h)。																	
教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。																		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都造形芸術大学編『立体造形を学ぶ』角川書店, 1998</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年告示)</li> <li>・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』(平成30年7月)</li> </ul>																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	完成作品の提出	70%																	
	教材の提案およびレポート	30%																	
注意事項	実習では汚れてもよい服装・靴を着用のこと。 彫刻道具はこちらで用意するが、実材代(2000円~3000円程度)が必要。詳しくはオリエンテーションの際に提示する。																		
備考	なし。																		
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし。
実務経験を いかした教 育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。